

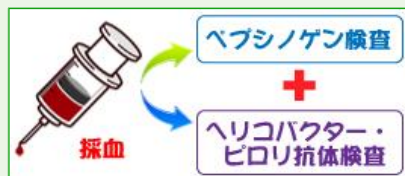
あなたの胃はどのタイプ？

血液検査でわかる

ABC分類で胃の健康度をチェック！！

血液検査の結果から、胃がんのリスクを分類します。

まだ、胃カメラを
受けたことがない
方に、お勧め！！

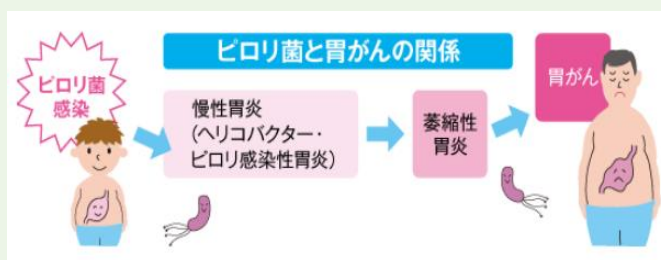


ペプシノゲン検査
(PG法)
「ペプシノゲン」という物質
の血中濃度を測定することで、
胃粘膜の老化（萎縮）の状態
を客観的に調べる検査です。
萎縮が進んだ胃は、胃がんにな
りやすいと言われています。

ヘリコバクター・ピロリ抗
体法 (H.Pylori)
胃がヘリコバクター・ピロリ菌
に感染していないかを調べる検
査です。
ピロリ菌は胃粘膜にダメージを
与え、様々な病気の引き金にな
ると考えられています。

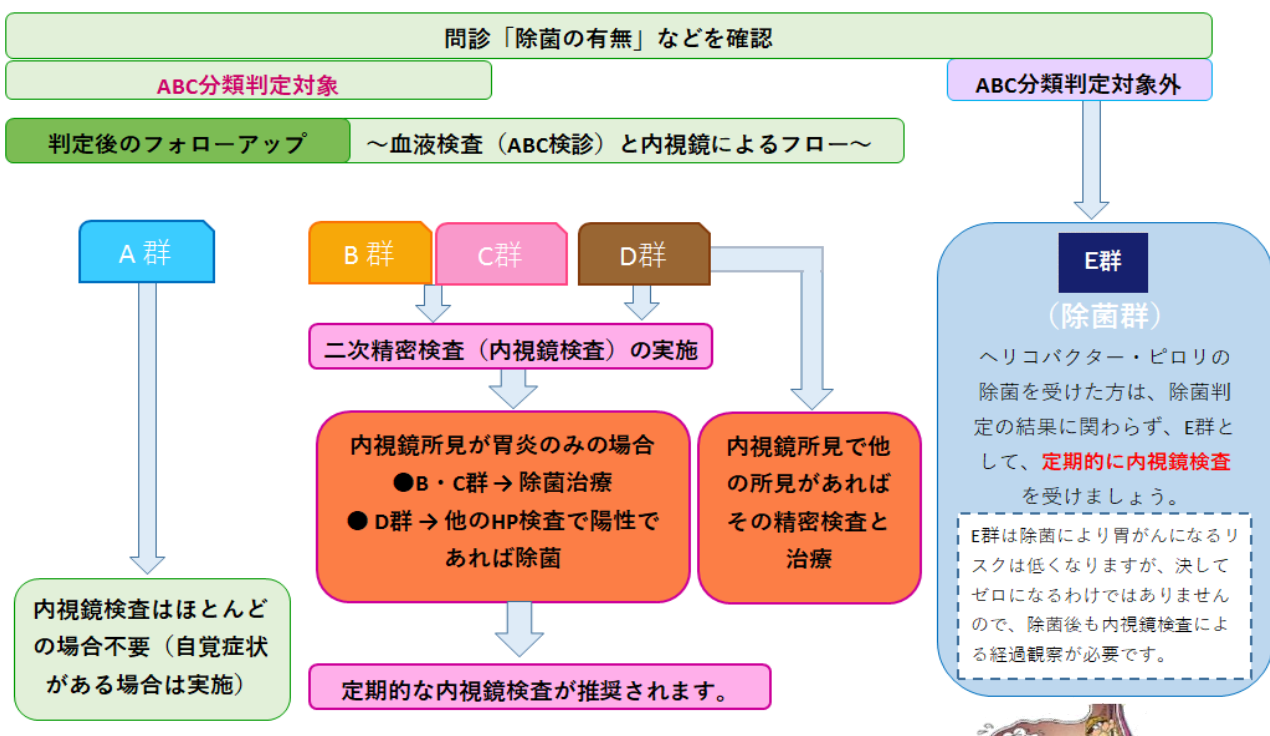
胃がんの発生にピロリ菌感染の影響あり

1994年に国際がん研究機関（IARC、WHO）
はピロリ菌が胃がんの原因であると認定しまし
た。さらに2014年の勧告では、ピロリ菌の除菌
が胃がんの予防になること、そして血清ペプシ
ノーゲンが胃がんのリスクの指標になると認め
られました。



リスク分類の流れ1

フローチャート



料金（オプション）¥5,500（税込）

- ※ 準備があるため、前日までに申し込みください。
- ※ 健診受診で行う採血と同時に行うことができます。
- ※ 結果は、別紙でのご案内となります。



公立つるぎ病院 健康管理課
Tel (076) 272-1250 (代)

ABC健診の結果報告例

A群 おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。

逆流性食道炎などピロリ菌に関連のない病気に注意しましょう。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往のある方が含まれます。一度内視鏡検査等の画像検査を受けることが理想的です。



B群 少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。

胃がんのリスクもあります。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。



C群 萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。

胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。



D群 萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。

胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。必ず専門医療機関（消化器内科）で内視鏡検査など診断を受けて、医師にご相談ください。



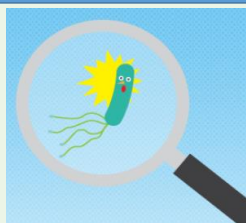
★注意事項★

以下の場合、結果が正確に判定できない場合があるため、ABC健診対象外となります。

- ピロリ菌の除菌治療を受けた方
- 過去に胃切除した方
- 食道・胃・十二指腸の病気を治療中の方
- 腎不全の方
- 胃酸を押さえる薬を服用中もしくは2ヶ月以内に服用していた方
- いままで、免疫抑制剤を服用したことがある方



ABC健診は、胃がん早期発見につながります。予防医療としてのがん対策が推進されています。



Q.ピロリ菌に感染すると胃がんリスクが高まるってホント？

A.ピロリ菌に感染すると、胃の粘膜は炎症を起こします。この炎症症状が続くと、慢性胃炎や萎縮性胃炎が進行し、やがて胃がんの発

Q.ピロリ菌ってどういう菌なの？

A.ピロリ菌は胃の中にすみ、胃の粘膜を傷つける菌です。通常、胃の中は強い酸性で菌はすみませんが、ピロリ菌は特殊な酵素（ウレアーゼ）によってアンモニアを産生し胃酸を中和することで、胃の中でも生きることが可能です。ピロリ菌の感染は幼少期（4～5歳）までにおこり慢性的に持続して胃の粘膜に炎症を起こすことが知られています。

ピロリ菌感染は、胃がんの原因です。さらに、ピロリ菌除菌が胃がんの予防になると世界的な研究により認められています。

